



「広島大会の成果を未来につなぐ」

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会

会長 大関 浩仁



第62回全国研究協議会広島大会が令和7年8月21・22日に広島県広島市の「広島国際会議場」にて開催され、盛会のうちに終わりました。今年度より2日間開催を復活することができ、全国各地より参集した会員による協議場面では各地の情報や意見が活発に交わされ、実り多い大会となりました。本大会の成功は、広島県教育委員会、広島市教育委員会、広島県特別支援学級・通級指導教室設置校校長会の皆様方の御尽力によるものであり、厚く御礼申し上げます。開会行事では文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 生方 裕 様に続き、広島県教育委員会教育長 篠田 智志 様、広島市教育委員会教育長 松井 勝憲 様より祝辞を頂戴しました。講演の川上 康則 氏（杉並区立済美養護学校主任教諭、立教大学兼任講師）による「心の余白を生み出す特別支援教育のあり方～教室マルトリートメントの改善と予防に向けて～」からは、通常の学級を含めた校内支援体制づくりに役立つ多くの学びを得ることができました。そして、翌日は3分科会に分かれて、6つの提案について協議を進めることを通じ、各地における学校経営上の工夫や有益な情報を共有する貴重な機会となりました。この成果を各地でお役立ていただけることを期待します。

さて、この9月より次期学習指導要領の改訂に向けた具体的なワーキングが進むと聞いております。この先は、おそらく月に1回程度の検討会が重ねられ、来年の夏頃までには、ある程度の見通しが出てくることと思います。すでに7月4日に開催されました中央教育審議会 教育課程部会 教育課程企画特別部会での配布資料においては、「通級による指導」において現行の自立活動（週当たり最大で8時間程度）に加えて、特に必要あれば教科を扱うなど新たな案が示されたところです。今後の検討による改訂の方向性について注視をするとともに、必要に応じて学校現場の声、特に学校経営の立場から必要な事柄について、国に届ける役割が「全特協」に求められているところです。今後とも、公立小中学校における特別支援教育の専門性向上、校内支援体制づくりを管理職と一緒に支える「特別支援教育コーディネーター」の処遇や小中学校に在籍する児童生徒の実態に照らした教員定数など、具体的な教育施策に繋がっていくことを期待し、会員皆様の声を届けてまいります。

さて、夏季休業期間中には様々な研究大会が全国各地で催され、複数の会に参加いたしました。ある研究会での「校内支援体制づくり」に向けたグループ協議では、校長や副校長・教頭の管理職ばかりではなく、特別支援教育コーディネーターを担当する教員もメンバーとなる構成のなか「担当教員の異動によって生じる課題」や「具体的な執務時間の保障」など、学校経営に直接関わる課題が各地で共通していることを改めて認識しました。また、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（NISE）による動画コンテンツなどを校内研修で活用するアイデアが校内支援体制づくりに有効であることも話題となっていました。

本協会の諸活動により、特別支援教育に関する校長先生方の情報共有が活発になるとともに、会員各校のさらなる発展をお祈り申し上げます。

第62回 全国研究協議会 広島大会

広島大会実行委員長 堤 信之

令和7年8月21日、22日、全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 第62回全国研究協議会 広島大会を「広島国際会議場」において開催いたしました。御来賓の方々をはじめ、全国理事の皆様及び全国各地より御参集いただきました校長先生方の御理解と御協力を得て、無事に広島大会を終えることができました。

また、本大会は対面開催のみで実施しました。全国の校長先生方が一同に集うことで生まれる「熱」を、2日間通じて共有し、実りのある大会にすることができました。

心より感謝申し上げますとともに、以下、本大会についてご報告いたします。



【開会行事】

主催者挨拶	全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会	会長 大関 浩仁
	第62回全国研究協議会 広島大会実行委員長	堤 信之
来賓祝辞	文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課長	生方 裕 様
	広島県教育委員会 教育長	篠田 智志 様
	広島市教育委員会 教育長	松井 勝憲 様

＊文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 生方 裕 様から障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ「インクルーシブ教育システム」のさらなる充実を図っていくこととお話しいただいた。

＊広島県教育委員会教育長 篠田 智志 様からは、子どもたち一人ひとりが地域で自信をもって生きていくために、学校全体での連携、地域社会との協力の大切さをお話しいただいた。また、広島市教育委員会教育長 松井 勝憲 様からは、家庭・学校・地域が連携・協働し、誰一人取り残さない豊かで深い学びの実現に向けて取り組んでいく必要性をお話しいただいた。

【行政説明】

「特別支援教育の充実について」

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 生方 裕 様

〈説明内容抜粋〉

1 特別支援教育の現状について

義務教育段階の全児童生徒数は減少しているが、特別支援教育を受ける児童生徒数は増加している。

2 障害者権利条約に関して インクルーシブ教育システムとは？

国連の障害者権利委員会からの勧告は、日本以外の諸外国にも発出されている。日本は、日本におけるインクルーシブ教育をより一層推進していく。

3 通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会報告を受けた取組

各県のインクルーシブな学校運営モデル事業を指定された学校が様々な工夫をしながら取り組んでいる。

4 特別支援教育を担う教師の専門性向上に向けた取組

全ての教師が特別支援教育に関わる専門性を身に付けていけるようにする。



【講演】

演題：心の余白を生み出す特別支援教育のあり方

～教室マルトリートメントの改善と予防に向けて～

講師：杉並区立済美養護学校 主任教諭 川上 康則 様

〈講演内容抜粋〉

子どもとの関わりで大切にしたいこと

1 「観」を広げよう

自身の児童観・生徒観を磨き直す必要がある。そうしなければ「あれども見えず」となる。

2 自らつかみ取った経験則は何のエビデンスにもならないことを理解しよう

3 大人の笑顔は「無言の承認」 大人の機嫌は「主体性への架け橋」

子どもとのラポールづくりが重要である。

4 子どもを変えるやり方を求めるのではなく、大人のあり方を見なおそう

人の心はそう簡単には変わらない。自分がどれだけ大切にされているかを感じ取って、はじめて子どもは「変わりたい」と思えるようになる。

5 時代が変わったのではなく、これまで当たり前だと思っていたこと自体がおかしかったのだと受け止めよう。「こうあるべきの呪縛」から抜け出す必要がある。

6 大人にも深い感情がある。気づきとケアを大切にし、子どもたちに大人の温かさと未来への希望を伝えよう。ハームフルな関わりを選ばない習慣を作る。教師が自身の「余白」を作る環境を作っていく。



【分科会】

第1分科会 「校内体制を整備し特別支援教育の充実を図る学校経営」

○島根県出雲市立浜山中学校校長 真玉 玲子 ○広島県三原市立糸崎小学校校長 三寺 美穂

第2分科会 「特別支援教育の推進に向け教職員の理解と資質向上を図る学校経営」

○岡山県岡山市立幡多小学校校長 馬場 真一 ○広島県安芸高田市立吉田中学校校長 和田 治子

第3分科会 「関係機関との連携を推進し特別支援教育の充実を図る学校経営」

○前広島市立上安小学校校長・広島市立大学教育基盤センター教授 三吉 和彦

○広島県福山市立川口小学校校長 野島 史吉

※実践発表を基に、他都道府県の方と深く協議したり、広く情報交換したりする機会となった。

【大会参加アンケートより】

○大会運営について

- ・広島県、広島市が一体となってすすめてくださったことに感謝しております。また文部科学省や特総研などのバックアップが2日間あり、役員、事務局の皆様のご尽力だと思いました。
- ・大変有意義な研修になりました。夏休み後、すぐに活かしていこうと思います。

○講演・分科会について

- ・川上先生の講演がとても心に響きました。
- ・講演が大変勉強になりました。経験則にとらわれないように自分から、考え方、見方を改めていきたいとします。
- ・他県の先生方と意見交換ができて有意義な時間がすごせた。発表も素晴らしく、今後の取組についてヒントが得られた。
- ・人材育成は、特別支援教育を中心に行っていくべきであると改めて整理整頓できたことに感謝いたします。

**令和7年度 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
第40回 関東甲信越地区研究協議会 山梨大会**

1. 研究主題 学校における一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
2. 期 日 令和7年11月14日(金) 13:00～16:30
3. 会 場 ふじさんホール
〒403-0013 山梨県富士吉田市緑ヶ丘2-5-23 TEL 0555-23-3100
4. 日 程
- (1) 開会行事 13:00～13:15
主催者あいさつ 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 会長 大関 浩仁
第40回関東甲信越地区研究協議会山梨大会 実行委員長 飯沼 一彦
来賓祝辞 山梨県教育委員会教育長 荻野 智夫 様
- (2) 記念講演 13:25～14:25
演題 「共生社会の担い手を育む」を教育の合言葉に
～一人ひとりの「これならだいじょうぶ」を実現しながら～
講師 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター 上席総括研究員 兼 センター長 久保山 茂樹 様
- (3) 実践発表及び指導講評 14:40～16:20
実践発表1 「インクルーシブ教育を見据えた小中の連携」 韮崎市立韮崎小学校長 作地 秀二
実践発表2 「甲州市における特別支援教育の体制整備」 甲州市立勝沼中学校長 辻 純二
実践発表3 「連携を重視した通級指導教室の取組」 甲府市立南西中学校長 大森 竹仁
指導助言 韮崎市教育委員会教育課学校教育担当 学校支援員 河西 慶仁 様
- (4) 閉会行事 16:20～16:30
主催者あいさつ
次期開催地区代表者あいさつ

5. その他

- ・本研究協議会は、参集とオンラインのハイブリット型で開催いたします。
- ・山梨県外からの参加は、原則オンラインでの参加となりますが、参集での参加も可能です。
- ・参加申し込みは、二次元コードより10月10日(金)までをお願いいたします。

「山梨県外参加者用」



「山梨県内参加者用」



【山梨大会事務局】 山梨県都留市立都留第一中学校 校長 岩澤 宏行 (大会事務局長)
〒402-0023 山梨県都留市大野52-5 TEL 0554-43-4111 FAX 0554-43-4112
Email: iwawasa-tsni@es-jhs.kai.ed.jp

第3回 全国理事研究・研修協議会(京都府)開催の御案内

○令和8年1月30日(金)

- ・会 場 京都テルサ(京都府民総合交流プラザ) 京都府京都市南区東九条下殿田町70
- ・内 容 ①全国副会長研修会 9:20～11:20
②全国理事会・ブロック会・顧問参与の会 11:30～12:40
③全国理事研究・研修協議会 13:30～16:45
ア 開会行事 イ 講演 ウ 研究協議
④本部説明、諸連絡、閉会行事

☆本年度最後の「全国理事研究・研修協議会」となります。御参加をお願いいたします。

【お知らせ】①全特協新ホームページには、右の二次元コードから接続できます。

②全特協事務局メールのアドレスが10月1日より変わります。

新メールアドレスは sepa@zentokukyo.jp です。

全特協 HP→
二次元コード

